

# 「平和非核宣言」の町として 核廃絶運動の一層の強化を



広島・長崎に原爆が投下されてから63年が経ったが、いまだに2万6千発もの核兵器が世界中に配備されて、人類の生存を脅かしている。核兵器を廃絶して恒久平和を実現することはすべての町民の願いであり、その思いが「幕別町平和非核宣言」として決議されている。

私は、今年の「原水爆禁止世界大会」に参加させていただいたが、国連や外国政府代表等も参加し、2010年国連での核不拡散条約再検討会議に向け、核保有国に核廃絶の実行を迫る運動の強化を確認した。

非核平和宣言の町として次の取り組みをすべきと思うがどうか。

- ①「平和市長会議」に参加し「核兵器廃絶」にむけ他都市と連携していくこと。
- ②町民とともに運動を進めるため、パネル展の外にも具体的行動を起こすこと。

## 町長

①本町は、平和非核宣言をしている町であり、平和市長会議の基本理念や活動趣旨は十分理解できる。他市町村の動向など情報収集することも含め、検討したい。

②図書館では毎年8月の1カ月間、戦争と平和をテーマにした特別展示を実施し、平和に関連した図書を集積することで、利用者の関心を引くよう努めている。

原水爆禁止国民平和大行進活動や原水爆禁止世界大会への参加などの民間レベルでの活動等に対し、少しだが支援しており今後も継続したい。

町内のお寺で「平和の鐘」というような意味合いで、原爆が広島に投下された8月6日と長崎に投下された

8月9日に鐘を鳴らすという取り組みがなされている。町民の皆さんによる独自の活動にも期待をしている。

③本町では、幕別町平和非核宣言の議決を受け、啓発

## 忠類地域に介護施設の建設を



来年4月に向けて介護保険第四期事業計画作りが行われている。不足している特別養護老人ホーム等の施設整備、介護保険料改定、介護報酬の引き上げ問題と福祉施設の劣悪な労働条件、経営難など問題が山積しており、これに定める事業計画にしなければならぬ。

①計画策定の手順、基本的考え方は。

②65才以上の人口、介護認定者の推移。

③福祉施設の整備。過疎対策のためにも忠類地域に介護施設の建設を。

用の看板を町内の国道、道道沿いの目立つところ3カ所に設置している。さらなる取組みとして、ホームページへの掲載についても検討したい。



- ④介護保険料の改定は。
- ⑤介護現場の困難解決のため、介護報酬の引き上げと国庫負担割合の引き上げを要求すべき。

## 町長

①幕別町介護保険運営等協議会で、計画の策定について諮問した。来

年2月ごろに答申予定である。基本的な考え方は、第4期計画は、第3期計画で設定した平成26年度の目標に至る中間段階としての位置付けであり、第3期計画の策定の際に国が示した基本指針を基本的に引き継ぐ。

②65歳以上の人口は、平成20年度6,476人にに対し、目標年度である平成23年度は、510人増の6,977人、率では7.9%の増。また、要介護、要支援の認定者数は、本年度990人にに対し、23年度は107人増の1,097人、率では9.0%の増と推計している。

③国の参酌標準に変更はなく、療養病床の削減も現在の設置主体がそのまま老健などに転換する意向が多く、大変難しい状況にあるが、道とも協議し、施設の種類の運営主体、サービス需要などの検討をしたい。

④現行の保険料の水準を維持していくことは、非常に厳しい状況にあるが、必要なサービス量を的確に見込み、できるだけ保険料を抑えられるよう努力したい。

⑤介護報酬が引き上げられると、介護保険の総費用が膨らみ、その財源が大きな問題となるが、自治体や被保険者の保険料、利用者負担の増につながらないことを願っている。